

2015年2月2日掲載

かむ大切さ

歯の喪失で認知症に

むし歯や歯周病などで不幸にも歯を失ってしまった場合、そのまま放置しておくとも認知症になるリスクが高くなるということが分かってきました。歯がないまま義歯やインプラントなどの処置を行っていない人は、歯が20本以上残っている人に比べ、認知症のリスクが約2倍になることが厚生労働省の調査で明らかになりました。

また、義歯を入れてかむことができるようになると、認知症などの症状が軽くなるということも介護の現場で実際に見られるようになりました。

例えばベッド上で寝たきりだった人が適合の良い義歯を入れたら、ベッドから起き上がって座れたとか、歩行ができず車椅子を使用していた人が適合の良い義歯を入れたら自分で歩けるようになったという事例です。

義歯はもちろんその方に合わせて作製しますが、なかなか合う義歯を製作するのは難しいものです。寝たきりの状態になると歯型を取るのもご本人も負担ですし、かみ合わせを確認するのもひと苦労です。若いうちからきちんとブラッシングをして定期的にかかりつけの歯科医院に行き、歯のメンテナンスをするように予防を心掛ければ、歯の喪失を減らし、将来認知症になるリスクも少なくなるはずですよ。

こんな話があります。アメリカ初代大統領ジョージ・ワシントンも歯が悪く入れ歯で、動物の骨に人の歯を植えこんだ「義歯」を入れていました。彼は入れ歯のためか、晩年は怒りっぽく、演説も避け、人に会うのも嫌がったのだそうです。